



町長の行政報告をお知らせします

八峰町9月議会定例会が8日から17日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

交通死亡事故ゼロ1,200日達成 飲酒運転は県内最下位

わが町は9月1日現在で交通死亡事故ゼロが1,212日続いています。秋田県で行っている飲酒運転等住居別実態調査の順位によれば、6月定例会の行政報告の中で「ワースト2」と報告したところですが、その後また飲酒運転が発生したため、7月末日現在では、残念ながら県内最下位となっています。

また、これとは別に高齢者が被害者になる交通事故も多発していることから、去る一日、交通安全全国キャラバン隊の来町を契機に、さらに関係機関と連携を深め、飲酒運転の追放・撲滅と高齢者の事故防止に取り組んでいきます。



八峰町過疎地域自立促進計画 (略称：過疎計画)を策定

過疎法については、昭和45年の「過疎地域対策緊急措置法」以来、これまで4次にわたり立法化され、過疎地域の振興・発展に大きな役割を果たしてきました。本町においても産業の振興をはじめ、交通・生活環境の整備、福祉・保健・医療の向上、教育の振興など多岐にわたって財政上の特別措置である過疎債を有効に活用してきました。

平成12年から10年間を期限とする過疎法は、本年3月31日をもって失効することから、一部改正する法律が4月1日から施行され6年間延長されるとともに、本町は引き続き過疎地域の指定を受けることになりました。

改正過疎法では過疎計画の策定義務が廃止となり、策定できる任意規定に改正されたところですが、引き続き過疎債を活用し地域の振興を図るため、「八峰町過疎地域自立促進計画」を定めることとしました。

八峰町敬老式 初養老者は155名 金婚夫婦は45組

今年度は、古希を迎えた方が155名、傘寿の方が122名、米寿の方が58名となっています。



また、結婚後50年を迎えた金婚夫婦も45組おられました。いずれも人生の節目を迎えられた方々であり、あらためてお祝いを申し上げますと共に今後一層のご長寿をご祈念申し上げます。

9月5日八森地区文化ホールにおいて開催された敬老式には、対象者のうち初養老の65名を含め135名が出席し、互いの近況を語り合うなど和やかな雰囲気の中で行われました。また、会場内の一角に設けられた特設の撮影所では、節目の記念にと一人で或いは夫婦で、中には同級生との集合写真を撮られる方もおられました。

式典終了後のアトラクションでは、峰神太鼓による「天響」の演奏や峰浜民謡サークルの皆さんによる「秋田おわら」や「よされ大漁節」の踊りが披露され、楽しい一日を過ごしていただきました。

海水浴客は4万5,600人 前年を5,400人下回る



今夏の天候は、太平洋高気圧の勢力が強かったことなどにより気温が上昇し、記録的な猛暑となりましたが、お盆シーズンや週末の天候があまり良くなかったことから、海水浴客数は、前年度を約5,400人下回る4万5,600人程度となっています。また、御所の台オートキャンプ場の利用者も2,761人と、前年度を408人下回っています。

ハタハタ館の8月末現在の入浴者数は、6万2,452人で、前年度と比較し3,671人、率にして5・6パーセントの減となっています。売上げの状況は、入浴料やお風呂などで落ち込みが見られま

猿害対策を一層強化 被害区域が拡大

今年度の猿の捕獲頭数は、9月1日現在、檻による捕獲が11頭(18頭)、銃器による捕獲が12頭(22頭)の合計23頭となっています。前年度と比較し、捕獲頭数が合計17頭減少しています。捕獲頭数の減少が全体頭数の減少ではないと見えています。

※()内は前年度数値となっております
捕獲頭数減少の要因としては、前年度、経済危機対策臨時交付金事業で電気柵を3キロメートル設置しましたが、その場所で捕獲が5頭、捕殺が2頭の計7頭減ったこと、猿は学習能力が高いため、檻に近寄らなくなったこと、猟友会の会員が銃を向けるとすばやく逃げるなどと考えられます。

農作物の被害区域は、埴川地区を中心に拡大しています。被害作物はスイカやカボチャ、ナス、トマトなどの自家用野菜をはじめ



荷用のネギや大豆、稲にまで及んでいます。石川地区では住宅にも猿に侵入されました。町では「サル被害防止網」を一人2枚まで無料で貸していますが、前年度は1年間で63人に貸していますが、今年度は、すでに99人に貸していることから分かるとおり、被害区域は拡大しています。

今年度の猿害対策については、大久保岱地区に電気柵を900メートル設置したほか、檻を3基作製し全部で27基を被害地区に設置し、職員が随時巡回しエサの交換や檻の点検をしています。今後、秋野菜や大豆、稲の被害が拡大することが予想されますので、猟友会にご協力いただき、花火弾による追い上げや捕殺なども随時実施していくことにしています。

「住宅リフォーム緊急支援事業」 申請者多数、引き続き申請を受付

県では、8月23日の臨時県議会で新たに8,000戸分、8億4,600万円の予算を追加し、好評な当該事業の継続を決定いたしました。当町における8月末現在の申請件数は195件で、対象事業費は3億5,950万円、補助金の申請額は4,158万円と、町単独補助金の上乗せ効果もあって、当該事業の利用率は、県内市町村の中でもトップクラスとなっています。工種では、屋根の葺き替えが53件、下水道への接続が40件、屋根や外壁の塗装が38件、システムキッチンやユニットバスなどの設備交換が36件となっており、町内建築業者の受注拡大をはじめ、既存住宅の耐久性や省エネルギー化などの推進に役立っています。

この補助事業に関しては、引き続き申請を受け付け、より多くの町民に利用を呼びかけていくことにしています。

「合併処理浄化槽整備事業」 小手萩、大槻野地区で設置始まる

6月定例会で関連の条例及び予算の議決後、対象者に、地区説明会や文書で市町村設置型の合併処理浄化槽整備事業の周知を図ってきましたが、これまで、10件の申